



GANGSTERS< スポンサーを始めることになった経緯は？

新澤：僕や須田はGANGSTERSのOBなんですけど、今ではSpeeeで事業づくりの最前線に立ち、社会にインパクトを与えるテーマに本気で挑んでいます。自分たちのように「本気で日本一を目指す」人間が、ビジネスの現場でも力を発

揮し、結果を出せるという実感があるからって、今あらためてGANGSTERSと本気で向き合いたいと思ったんです。この想いは僕らだけではなく、経営陣の間でも自然と共有されていて、「GANGSTERSのような環境で本気でやっていた人たちがSpeeeはもったのがあっていくべきだ」という声が上がっていました。

それに、GANGSTERSのような部活動に打ち込んでいる学生と、僕らのよ

現役の学生たちが「自分の可能性」に気づき、広げていけるようなきっかけになれば嬉しいです。

うなベンチャー企業が出会う機会って本当に少ないんですよ。だったら、GANGSTERS出身である僕たちが間に立つことで、普段交わることのない世界が交差する場をつくれるんじゃないかと思いました。それによって、現役の学生たちが「自分の可能性」に気づき、広げていけるようなきっかけになれば嬉しいです。

ただの採用活動にとどまらず、本気で挑戦している者同士として、スポンサーという形で継続的な関係を築いていきたい。そんな想いから始まった取り組みです。

interview

株式会社 Speee × GANGSTERS

昨年度より弊部のスポンサーとしてご支援いただいている株式会社Speee。2007年に創業し、5年前に上場し既に複数サービスで業界No.1を獲得。大企業を巻き込んだプロジェクトを推進し、巨大市場の大改革に挑む事業開発集団である。先行きの見えにくいこの時代に、なぜ大学

スポーツを、なぜGANGSTERSを支援しようと思ったのか。そこにはどのような思いがあったのか。今回、現役部員より植野（4回生TE）、阿部（4回生DB）がSpeee本社を訪問。同社で活躍するGANGSTERS OBとの対話も実現し、多くの学びと気づきを得た。

GANGSTERS<の スポンサー活動を通じて 期待していること、 思っていることはありませんか？

新澤：京大アメフト部の存在意義として、何よりも日本一になるというのが前提にあります。スポンサー活動を通して、その目標実現のための助けになりたいと思っています。フィジカル面、スキル面は常に意識するでしょうし指導も受けたいと思います。しかし、こういう考え方やマインドセットがあるよってという心の面のサポートは、実はなかなか受ける機会がないのではないかなと思っているので、近い世代の私達から、ビジネスで培ったマインドや組織マネジメントの考え方を伝えることで、日本一を目指すGANGSTERSに貢献できればと思っています。

また、GANGSTERSにスポンサー支援をすることにした決断手として、本気で目標に向かって取り組んでいる団体であるという点を非常に重視しました。目標の実現可能性や、現状とのギャップはどうでもよく、ときには仲間との争いも恐れずに本気で取り組む気概や迫力に一番価値があると思っていますので、その集中力、没入感、本物感には期待しています。厳しく辛い思いをすることが単純に良しとはされなくなってきたというこ



須田 克志

京都大学2015年入学。GANGSTERSではDBを務め、大学院在籍時はオービックシールズにて社会人Xリーグ日本一を経験。2021年株式会社Speede入社。セールス&マーケティング部ソリューションセールスマネージャー。圧倒的な成果やマネジメント等が評価され、2022年と2024年の二度、全社MVPを受賞。

新澤 庸介

京都大学2014年入学。GANGSTERSではWR/TE、4年生時にはオフェンスリーダーを務めた。2019年株式会社Speed入社。デジタルトランスフォーメーション事業本部事業責任者。CS組織の拡大やマネジメント改善を通じて営業組織への多面的貢献が評価され、全社のMVPを受賞。

植野…僕も食事に誘っていただいたときに様々な相談に乗っていただきました。就活のこと、フットボールのこと、勧誘のことなど、とても親身になって聞いていただいたのが印象的です。

新澤「食事に行ったときに皆さんから悩
みを聞かせてもらって、悩み自体も、難
しい課題に立ち向かう真剣さも自分の時
と全然変わっていないかと実感しました。
この熱量で、まっすぐ取り組んでいるの

は本当に良いよなと思ったことが非常に印象に残っています。

須田「昨年11月に新チームの練習を初めて見た時は、仕上がりになんか不安を感じてました。しかしその後、冬の東大戦、春合宿、春の東大戦と見学しに行き、11月に比べてチーム全体が大きく変化したと実感していました。たった半年間で人はここまで変わっていくんだと面白さを感じるとともに、単純にその成長に勇気をもらえます」

の時代に、あえて逆行するほどの気概をもって取り組んでいるのならば、将来的に絶対に社会で活躍していく人材、日本の成長を担う人材になっていくはずだと思っています。だからこそ没入感だけに絶対的に期待したいところです。

とは別で、僕個人の思いとしては、GANGSTERSの皆さんは、同じ課題を共有している「同志」だという感覚も強いです。少子高齢化に伴って多くの課題が生じるこの時代に、同じような本気度で日本一という大きな目標に向きあった経験をもつ同志だからこそ気づけることがある。そういった仲間と出会うことに期待しています。

あととは純粹に、勝つてもらいたい。僕たちの現役當時も相当頑張ったけど、関学には結局勝てなかったの。今考えてみて思うのは、我々の先輩たちも、きつと毎年我々と同じような悩みに向き合いながらあがいていたはずなのに、次の世代にその思いや経験を受け渡しきることができていなかったんじゃないかということです。4年間という短い期間で日本一を達成するには、先輩の成功体験を自

新澤…不可能に思えることを、まだ不完全の残る学生が実現していくという姿を見て、勇気をもらえる部分もありです。僕らベンチャー企業も、不可能に近いことを可能にしていくということをやっているという意味で通ずるところもあるので、我々に勇気を与えてほしいですね。

須田…ブロチームではなく学生チームへのスポンサーであるというところに意味があるですね。明確なリターンが欲しいからスポンサーをしていてるというより、勝ち負けが明確に分かれるスポーツという世界で、本気で勝ちにこだわって、何度も悔ましい思いをしてもそれでも勝ちに行くっていう、そんな姿に期待しているんです。また、後から振り返った時に、本当に価値がある四年間だったなと思えるように全力で日々を過ごしてほしいです。

スポンサーを始めてから
約半年経った今、
GANGSTERSを
どう感じているか？

新澤：Speedが求める人材でもある。一見無理だと思うことに全力で挑戦する。ある意味変人とも言える人が本当に今のチームにもいるのかなと、半信半疑で半年間関わっていましたが、実際にいまし

したね。難しいものに向かってピュアに、素直に、がむしやりに挑めば、どんな状況でも変えられる。そう証明してくれた半年間だったと感じています。

最後に、オフエンス、ディフェンスそれぞれのリーダーを務める植野、阿部から、チームの現状と悩みを打ち明けた。

植野「今年のオフシーズは、「ブレイクの完成度」にこだわる」ことをテーマにしています。FCチームもPSSチームも細部まで話し合ってこだわっていますが、まだ両チームともに課題が残っている状況です。今年は下級生が多く出てくれているため、経験を積むことに加え、「今年が勝負」と意識を保たせる難しさも感じています。

阿部…ディフェンスはかなり完成度が高い自信があります。それでも、関学立命館のレベルには達していません。タックリングへのこだわりは全体で意識して取り組んでいます。春には関学に30点、立命館には34点取られており、この差を確実に埋める練習が必要だと思っています。

がむしろに挑めば、どんな状況でも変えられる。そう証明してくれた半年間だったと感じています。



阿部 俊介

2022年入学。ポジションはDB。これまで、オフェンス、ディフェンスの両方で実力を発揮してきたが、今年はディフェンスリーダーとしてプレーと言葉でチームを牽引。

植野 翔太

2022年入学。ポジションはTE。2年生時から試合に出場し経験を重ねる中で、「自分がやるしかない」と覚悟を決め、今年のオフェンスリーダーに自ら立候補した。